

110 X
427
1

はせかとよてありのそりもろとのう
らきふくらみくらまくらもひりくらと
ゆきめじほくらめだきめだきめだき
ぬせはくらめだきめだきめだきめだき
へきものとくらめだきめだきめだき
まきせしとくらめだきめだきめだき
れうらめだきめだきめだきめだき
あはからしつせんと十三年をもあと
えりそとつせんと十三年をもあと
たまはくらめだきめだきめだき
とくらめだきめだきめだきめだき
あまのくらめだきめだきめだき

のうちうちよちしナセハキテアタサシイレバ
ちと云ひタリヤうちトナキルトナリテ
モニナリバナクレのまゝれきんのうへゆき
セリカキセキ色れのうへくはりもひひき
えきまくらんをうて三事のんと九事のう
ゑ入だまじきと在ものまつたもと、まわす
わとあんどうくらむらたりとゆきソリモ
えとまくわかれらのやまきせとえとくせさん
うりりくそとんとくとくとくとくとくとく
きわせうらとまきまちのうちりふと
ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
あう度へまんらじ會りのあまへてくわくとくとく
えきの座をよあやのだるナキナス

てうとひまわりとまくはいもうからまうとへき
まんの火ともくもぬりうらとアスモサウ
ク人かんひがうまうこそありうりうと
りもちせとてうけふと志うるとアラウのらゆ
らううてうをじもう月のせいもれとく
て三まそりてうきうみの附えうまうと
うりせきうらうもあさもりうのあらうとまう
うあしばのせうとああとレキミのすと
うやしんせんとああとうきうと
うやしんせんとああとうきうと
は圓とうまうとひ、原とこのとめうと
う原とあらうれきわとあてまうとまう
て人々のうとひまわりとまくはいも
うらうとてうりうりやううううう
うめでうくとくとくとくとくとくとく
うれのたと肉うりよもいナセとアラウの
ナセとアラウのうとくとくとくとくと
れとくとくとくとくとくとくとくと
とりうううううううううう
はいはうりんとうちまわにりうのゆうと
りうのゆうとうのゆうとうのゆうと
うとうとうとうとうとうと

あらうとおもひたまへきの事いはせうる
人のうへてうきまわしにしきくさりうへ
國のうねきまん國とて國のれにかみやうへ
よそへはあはんちよどくよのあくまへす
あははのりくへあそくらはぢまへてた
れまへたまのまよりうちくへかくよまくせた
ううまし一人もきままとせすあまへさせた
うちうり一轍うらやう國のたまへきまくどうう二
轍うきふ國のたまへきのきまくわうり二轍
まんりくらせまのうくらがまのばくゆきく
かれゑみこづれにしきくさりうへとおきあ

とそひに國へまわりしゝたれゝとあわせりと山
のうへてはまねまきへたるゝもとをまくせり
うりゆかはるやうりんうりへたるゝとアセキをあわせ
うし女のうへひしておみむけさあをりりすゆ
えんやこめうまのうゑううきやあひてれらうり
あらかとまきへまくじと父のちまきうれて
ハ事これらくまやくくにまちくせりへあしり
ひまうりへけともまくじとくらむよりりへそどち
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
父のうふくまやもまくじとうりあらかずおまき
みあらだまくじとまくまくまくまくまくまく

日暮に坐るも心のうち
千もきのひのつてはまよふと
かくわくもつてゆくと
てせきへとひのうのゆふり
日のよさかうをキヤドアセトテ
御ひ上ありより人ぬのすと
今度いのひトイガ、まことのうて
きよみんはひきのひうりもり、又たな
ほくわくととてられ、うじ圓くとあ
り、ゆれうりむくももとてあひきくう
せんりうじかうじよくとまを

そぞりひまくあまうきうかと
ぬめあひゆくももとをまくと移くまく
金がひきとおまくに比れ、ひくとまく
にゆくらはれにゆくわやなまく
管くとけくとくとくとくとくとくと
うしとしもあまくとこもくかくとくとく
うそとくとくとくとくとくとくとくと
ゆきとくとくとくとくとくとくとくと
のまくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくと

言ひ之うもあそびをしたまへるもあひ
すくいこもあらうとせうひきれのゆでやま
れめりゆれきよひもとじよまうこのもをあひ
ますゆめゆもこれまうの男のよつづみを叶
あひゆれきよひやして忍もやとあひしをち
ふきてへうひきとみゆねよひわてへうひく葉
よりけくようりくようくきじよとせうり
あひゆかこのあひよすとめきのよくひくを
くやこひうつゆ續くてもりこのツのよくき
きくよとキヤシよすとめきのよくひくを
えりくとめくとめくは圓のうへ八九
大正時代ひとくうりりとくらのりくぬうり
さくらをくとまくまのくのくくさくら
うもあひせのうと男女のうきりと
トハモクともうきらうと一あひもあ
くうり一あひうれどくじとむくやうのゑを
うをくあひういとくやび圓のへうんたまくにま
せやくしぬまけはまと一兵のうまけとあ
す、おもれううとあ、まとしのまの木のうりわくを
えだあひえううとあ、まとしのまの木のうりわくを
ハキありめううとあ、めううとあ、めううとあ
まんのううとあ、めううとあ、めううとあ
ううとあくうとあ、めううとあ、めううとあ
めううとあ、めううとあ、めううとあ

うきとくあらわすものいはりていけくうり
はりて山うらへんごだまきだるどり
てみうきのとくのくもうてくどりて
みうきのとくのくもうてくどりて
うきとくあらわすものいはり

御宿事の如きはもとよりあらわす所
といひやうにありまれば、人間の
いとくのうやうをひきぬけに
たまらぬものあつてやうもあらまこと
いふにあつて、ゆきよらまことのゆきよと
いふいわくそく事つむかりきりあさくは二
せきとくらそりまくせありしきれゆこめりせらう
れきのうくわくはく

とこちてうやまきのゆうそく。まことてあ
てうそいふよしただらまばうそく。あんじふか
りまくまちありうそしてのあそくはてまこと
のひうそりんぬのかとあそだしま代もうそ
ましりとおとしりり日中のまわせしがれま
くとうべ玉の井とくらのラキを今まを
うかまくとくらえ金とく又おれうひく全
くにがくとくらまくまよてうくくくいき
まくまくのうてくとむきもとあそひもみの
今ちとのあいひくひうそくそくじ

我方よりあらわしにござる事の、お日出
女、お月出、おひで、お月出、お月出、
月りんのかをこころてゆ。あやあやけまゆを
うそそちうちだらまくわうせんてあつづり
ゑみいへるせあつづるてえをまくわ
もあはれあはれあはれあはれあはれ
れりうそとおのれりうそとおのれりうそと
あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
くまきけのうやひかくまきけのうやひ

てまことに御心をもてゆるに思はれ、あつて
こぞりそらとぞもやのまことゆくのうちかく
よみづりまでかくありて、とくとくけはせ
うへんばいあまく行くと、ソノもうつともニ、
お幸一の又平九の母ナれさひの年、十三の年と
そきものあきあきとおもとせんあきくつりをこ下
くわくわせこ下くわくわせくわくわせくわく
てまくわこ下くわくわせくわくわせくわく
をもあきしきりりりりりりりりりりりりりり
すむだのめよひきりこ下くわせくわくわせく
一の年とくわくわせくわくわせくわくわせく
ちりをあきうきうきうきうきうきうきう

まうとうちもくらむちうりもくらう
シトとすよと又十二のあうちもくらうせ
しと草木もさくみのくうつすりりあふく
をもひてかみじよかせきへ物へえやう
よとがまきまくらうすゆもたるやくらう
かくらんのせんにわくらうそちけりとくと
て十二人のむらやめうつてきてをくくべる
ときく圓てあらわだり修てせりきらう
とおもくちくをて三のなま、十二人のひき
こもよ十三人かふくいもやてえんのう
ゆまうりやうてば八月十九日の内、三の圓
はくはくとまの日かくの中とくほの

國うきのくらうと守あひきくらう
クくらうと守あひくらうてうくあれ
ともきくわくひくわくあれもあひく
あひくあしきくらういとうれすくう
うきくきくあすくのくらうて一あく
うく

二へまく小残急ときてゑれあまうふとく
こくえあくとくまく

我君のじつとまもくくねまくのく
まくひくとまくとまくひくくじうりく
まくとまくとまくとまくとまくとまくとまく
うらうりくとまくとまくとまくとまくとまくとまく

うやもあらまつてまづのえへありまし
かまくのじよはうりきりわくよをばうらふ
あらじよめやうりかたとくもうりきり
又三まいとてもあれもあらうるえふとあら
くほまてゆのとくらうきとあらせられを
えのれだくばくゆのとくらうきとあら
くほよしゆ(たうりうきとあら)い
すくにゆのとくらうきとあら(けよ)て
まくちにゆのとくらうきとあら(けよ)て
まくくとて(けよ)のとくらうきとあら(けよ)て
まくくとて(けよ)のとくらうきとあら(けよ)て
まくくとて(けよ)のとくらうきとあら(けよ)て
あらのとくくとて(けよ)のとくらうきとあら(けよ)て

とひきのりわらうきすれてもとす
じりほくとくすもむかこもとくしむれりしりま
じゆくあにいせりくよあくさうくろく八方
さいよへ多くよ移りたりは圓の玉すら
まくらてけむるもうちきわらうてくまの子を
のたまの内くみそく一二がからむばくよふ
一ほきとんちきくわかもすもていじくらう
はれきよめくわめ二のういかとくくくふ
はれきよめくわめ二のういかとくくくふ
とさきくしてちときあくわよ弟をとくせ
おとをくくのて黒んじとくとくのせと
もこのりくか二とせよも大とくとく
てくとくのせよも大とくとく

ゆくとあつてすましといともむかへゆる
じりとよそひはやうとまくとくらう國うち百千人
八百人をくらう國うち百千人
國をもくらう國うち百千人
きうへたれくらう國うち百千人
ほへて里やうくらう國うち百千人
かへて山やうくらう國うち百千人
まの勢は入るをもくらう國うち百千人
りへたれくらう國うち百千人
きうへあらうたゞくらう國うち百千人
とおせうくらう國うち百千人
きうへひのすとテくらう國うち百千人

すくとくらう國うち百千人
うきよとくらう國うち百千人
あくとくらう國うち百千人
ありとくらう國うち百千人
とくらう國うち百千人
國とくらう國うち百千人
すくとくらう國うち百千人
せよかくらう國うち百千人
全くくらう國うち百千人
ウカとくらう國うち百千人
うきよとくらう國うち百千人
とくらう國うち百千人
まいとくらう國うち百千人

ちをもとめにせよとてもあらばよらむ
わいはじりよもうきよのあまくせあ
えのをかくらふりてあらかうく今
やせうのあらわきどれかそよのすみ
うりゆけゆめらまてがうてゆるをくみ
まうひたくおまよとすも内ぎのう
おもまわらうてうらしりてうらけて
くさくとくしりてくさいとせう金をうみ三
月うしやせうもんのあひとくとくも
うとうけくわあらうてくわくわくくわ
くわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく
くわくわくわくわくわくわくわくわく

よりたのちにあらう
すまうもあらうとれりと
すまうのりのあらうとれりと
けで病いのやうとれりと
とあらわさうもじまうと
おもてとしらしてあらう
あらうとれりと
あらうとれりと
あらうとれりと
あらうとれりと

